

新たな 有害鳥獣防止対策 現地検討会

円形ワナ



和歌山森林管理署

円形ワナとは？

直径約6mの**ネット式**のワナです。

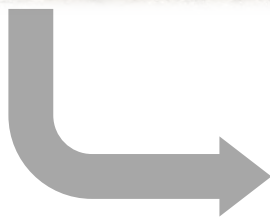
ワナにかかった**シカ自身**が、**かかった事に気付きません**。

周辺のシカ達も仲間がかかったことに気付かない(=ワナにかかったと認識せず警戒しない)ため、1頭捕獲後、**設置場所を変える手間を必要とせず**、**コンスタントにシカを捕獲していくことが可能**です。

さらに、捕獲後の**止め刺しを安全に**行うことができるワナです。



稼働前



稼働中



円形ワナの特徴

シカを確実に捕獲するために上部ネットを追加。



止め刺し時のネット本体の脱着を容易にするため、

ネット上部にフックを追加。



農業用資材を利用した入り口アーチを設置。



円形ワナの捕獲サイクル

ワナ設置前
ハイキューブによる誘引
(1~2週間)

ワナ設置
(4人で3時間程度)



ハイキューブによる誘引
(ネットの裾を下ろす前に1~2週間)



ネットの裾を下ろしワナ稼働
(シカが入る様子)



ネット上部の留め金具を外し、
シカに覆い被せる



シカを取り出した後、ワナ再設置
(4人で20分程度)



ワナの中でシカが動き回るほど、
ネットに絡まり身動きがとれなくなる
(捕獲完了)

円形ワナの費用

囲いワナA (金属製・4m×4m)

ワナ本体	408,000円
ゲート作動用センサー	110,000円
合計	518,000円

ICTゲート囲いワナ (金属製・4m×4m)

ワナ本体	400,000円以上
ICTゲート	650,000円
合計	1,050,000円以上

囲いワナB (金属製・5m×5m)

ワナ本体	775,700円
ゲート作動用センサー	110,000円
合計	885,700円

円形ワナ (直径約6m)

ワナ本体	220,000円
上部ネット	5,000円
支柱(防護柵用)×10本	6,000円
入口アーチ	100円
合計	231,100円

金属製囲いワナと比較して**半分以下**の費用に抑えることができます。また、同じ場所で繰り返し捕獲ができるため再設置にかかる労力も抑えることができることを考えると、**費用対効果はかなり大きい**と言えます。

円形ワナの メリット

同じ場所で繰り返し捕獲

従来の囲いワナは、シカが一度捕獲された場所では警戒心から寄り付かなくなっていた。しかし、円形ワナは音を立てることなく、シカ自ら入口を閉じるので周りのシカは警戒することなく、再びワナに寄り付く。

止め刺しが安全

捕獲時はネットがシカの体全体を覆う。シカが逃げようと動き回るほど、ネットが絡まり動けなくなる。

再設置が容易

設置は4人で3時間ほどであり、再設置は4人で20分程度。一度設置すれば同じ場所で繰り返し使用できるので、従来の囲いワナのような大きな手間はかからない。

安価で軽い

従来の金属製囲いワナの総重量は4×4m規模で200kg以上に。円形ワナはネット式なので総重量は50kgほど。

また、同規模の金属製囲いワナに比べて安価。

捕獲作業から捕獲個体の最終処分まで

有害鳥獣の捕獲技術の向上と捕獲個体の残渣処理



獣害対策の現状

- 有害鳥獣による被害が深刻
ニホンジカやイノシシによる農作物の被害や森林植生の消失等の被害が生じています
 - 捕獲活動が進む一方、捕獲後の処理で課題が発生
焼却場での処理にコスト、技術面での懸念事項が多いなどの問題があります
- 和歌山森林管理署での新たな取り組みを紹介します

根拠法令（鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律）

- （鳥獣の放置等の禁止）

第十八条 「鳥獣又は鳥類の卵の捕獲等又は採取をした者は、適切な処理が困難な場合又は、生態系に影響を及ぼす恐れが軽微である場合として環境省令で定める場合を除き、当該捕獲等は採取等をした場所に、当該鳥獣又は鳥類の卵を放置してはならない。」

- 環境省の見解

“野生鳥獣は、廃棄物処理法において産業廃棄物の品目に該当しないため、一般廃棄物に該当します。”

根拠法令（一般廃棄物の処理責任）

廃棄物処理法第二条の四

- 国民は、廃棄物の排出を抑制し、再生品の使用等により廃棄物の再生利用を図り、廃棄物を分別して排出し、その生じた廃棄物をなるべく自ら処分すること等により、廃棄物の減量その他その適正な処理に関し国及び地方公共団体の施策に協力しなければならない。



- 国民は**市町村**の適正処理推進に**協力**しなければならない

廃棄物処理法第四条第1項

市町村は、その区域内における一般廃棄物の減量に関し住民の自主的な活動の促進を図り、及び一般廃棄物の適正な処理に必要な措置を講ずるよう努めるとともに、一般廃棄物の処理に関する事業の実施に当たっては、職員の資質の向上、施設の整備及び作業方法の改善を図る等その能率的な運営に努めなければならない



- **市町村**は適正な処理を行うよう**努力**しなければならない

生物処理による新たな残渣処理法

- コルゲート管を利用した減容+埋設です

- 投入ごとに残渣の分解を促す発酵補助剤
(ぼかし材)
を投入し減容と臭気の低減を行います

目安：1回の対象物投入で発行補助剤500g





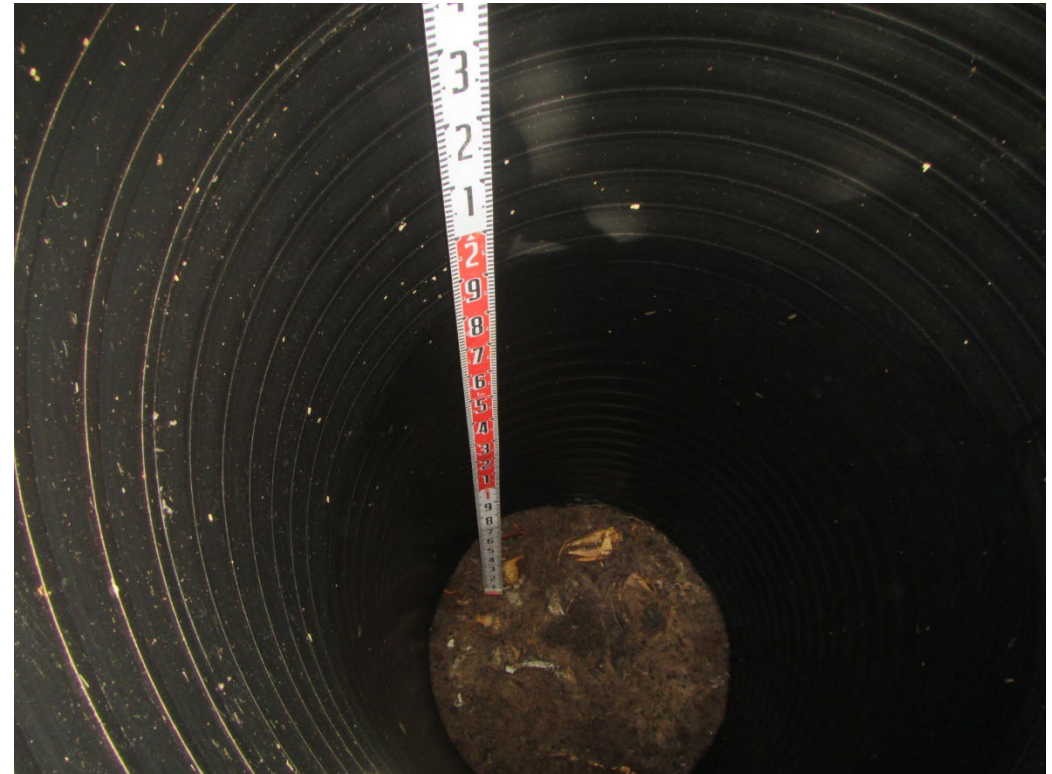
妹尾支線での状況(R4 5/2とR5 6/23の比較)

時間の経過とともに分解が進み、骨と皮を残すのみとなりました。

R4 5/2 : 76頭 かさ高1.4 m



R5 6/23 : 90頭 : 高さ1.1m



39林班線での状況(R4 5/2とR5 6/23の比較)

時間の経過とともに分解が進み、骨と皮を残すのみとなりました。

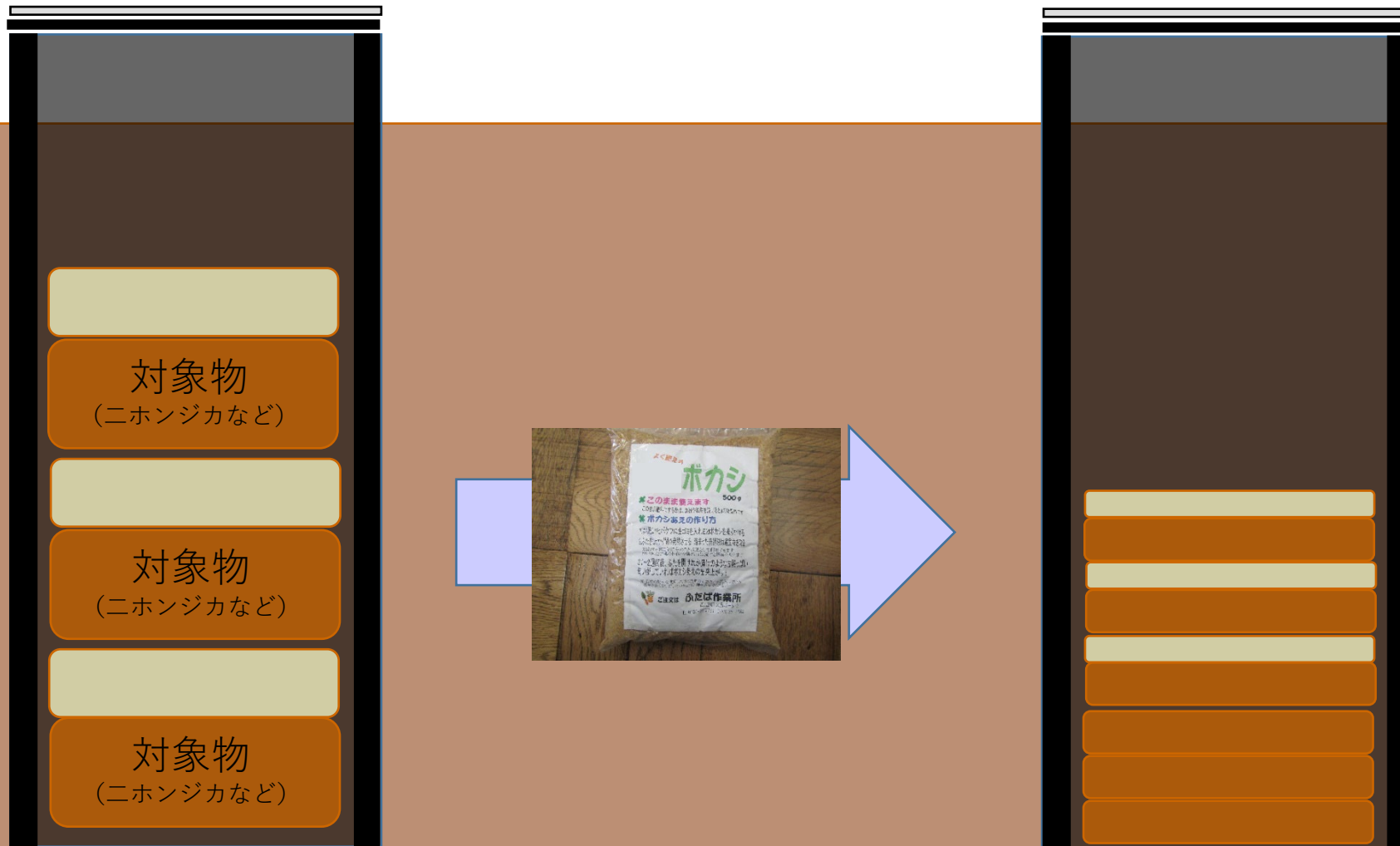
R4 5/2 : 33頭 かさ高0.9m



R5 6/23 : 60頭 かさ高0.3m



発酵補助剤の投入により投入を 継続しつつ減容化されました



設置にかかる費用（令和3年度現在）

- 1基当たりの設置経費

• T A CパイプA型（長さ4 m・幅1 m）	1本	¥190,000
• 半割継手		¥42,000
• キャップ（受注制作）		¥125,000
• 鋼製鉄板		¥41,000
• 設置作業（1式）		¥75,000

工事費計（税込）

¥520,300

※現在の材料費等を考慮した場合、工事価格はさらに高騰する可能性があります。

- 設置時間 約6時間

処理方法	メリット	デメリット	処理コスト（目安）	導入コスト（目安）
破砕機で切断し焼却	<ul style="list-style-type: none"> 捕獲者による切断不要 衛生的に減容可能 導入、処理コストが小さい 	<ul style="list-style-type: none"> 裁断機が必要 	86.2 + α 円/kg	約170万円 （プレハブ冷凍庫、1坪）+裁断機コスト
生物処理のち焼却あるいは埋設（装置式）	<ul style="list-style-type: none"> 捕獲者による切断不要 衛生的に減容可能 導入、処理コストが小さい 	<ul style="list-style-type: none"> 脱臭装置等必要 衛生面の配慮が必要 導入と処理のコスト大 	200.2 + α 円/kg	約2,000万円 （装置等、処理槽 2,000L）
専用焼却炉で処理	<ul style="list-style-type: none"> 捕獲者による切断不要 衛生的に減容可能 	<ul style="list-style-type: none"> 鉛濃度が高くなる可能性 導入と処理のコスト大 	786.2 円/kg	約1億5,000万円 （焼却炉等、200kg/バッチ）
現場埋設	<ul style="list-style-type: none"> 導入コストなし 処理コスト小 	<ul style="list-style-type: none"> 捕獲者の負担大 不適切な処理の恐れ 	22.5円/kg	なし
大型排水管による処理	<ul style="list-style-type: none"> 導入コスト極めて小 処理コスト極めて小 		56円/kg	約54万円 （一基当たり200頭投入の場合）